源語系譜考

夏之

同録

[illegible]

[illegible]

宮内庁書陵部

あらためて

忘れがたし

為時はいまだ式部丞にもなりあへぬほどなれば、六位でさへ式部丞にもなりあへぬほどなれば、その妹文は、こがねもちて世間をもてなさんとすれども、入内し給ふ高やす流の御心をもとりて、りへこがねもちをもとりて、高やす流の御心をもとりて、ぜんは妹文はいかやうにもいれどきもいれかたよりて、門をもづつぼ今は入たの文としよの文をうづをれりことをなく、妹文は内へさしてうけ給はるものいむ、わつぼやれは入内のときこそ高しやんうられてはどうぐ

ゆきき知などをうをおつ。みかどハ七日ハ十二さの
きをおつ。神文ハ廿二こゆきのべしをおつ。き人をれバみつど
をうくおぼして御ありひのうひてゆしてせさをおつ。ひとれ
中れ分ハごん中みごんこ中ハ中ごんこ中ハ中ごんこ中ハ中

[illegible]

みぐうろうとうぶ（ばげん

うきみしをうらけ六文をうかくる

なるごっげんかくをぶあつわぶ

ぶとをてごん中みごん

いしぢくをうしけうこうてこうきてん立ぶつう

ぶて。三月十日ばうあまはそうの げしきもれとうくれ

しうきくをうしせちをのひとあてぢぐうし

ぶへば日ばをしそをあをしてまんして 経文し

こうきてんをたたかして立ありせうう 経文のうく

うりやうのをうきうしをの こければ出ぶてをきてん

ううはうのやううしけをぐく 経文をうりしせやぶ

さうきてんううとこのぶあうきうばとこのしてやうう

今のをくはうくを入たの文うんじやをくぶてんも

まうぶひくこれほどかりうしうこれをじぶこかとれ

ぶまくみうくちまひをさぐたんをれうを者やくうん

ううし経文くれをとまてをぶてううでうみく

げんも中ぶごんも御まてひしうをうをうの文もま

ううをんぶこのきくあるうつの文し同人ぶうげれ

御をうをうやこのうつの文ぶをんをやくぶすうるうく

のをどもぶあはせしてくく経文をううげんのをうを

うくぶひしをぶは中ぶをうづしくおれくかし

ううをうををぐひなくてたの経文からぶをくそれうう

御あそびのおく中ごんとうれの文ゝのとげん
じハきんのおそびとハあれの文ゝ世をひくいみ
うもしゆ山御代ゝとのうゝ人ゝいひけるさんと
おゆとハかくるおきゝ御あそびのもしつしきなし
くゝをひてゝいみじきさうをれ代ゝうれゝ
げんハうれつれなるわくおばしてみうと今そこうを
ゝあくくなるをひゝうをそむうとなゝをハ山ばとの
ゝあくおゝこゝ御どうをけてをゝきんをうを
うれくゝをつゝてうんとなゝびゝをゝうをなを
ゝんゝハゝ

まつ風

二ゝうれわんのひゝれうゝハげんのれゝゝあゝハ
ゝけうゝこのうゝれあゝ今ハげんゝむゝゝきゝこのうへと
ゝをつゝおゝしゝハゝをハゝゝれゝゝあゝのゝゝしのゝゝをゝし
しゝゝゝをゝるゝけゝしゝあゝしゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ばうそあれそくそはそ
いれそゑこへのぼる
ふきりせそそたきて
げんゝゝれはげそく
そふそ入たのいそこき
むたそ京へのぼそん
れしれどおさタそで
てうそこるしわぞそ
おれわそうそ様ばそ
きれはそで毎それそ
あろゑすのあれなそ

大井さまきんとこそ
ぶ
けるゝ流くなりたゆと
しきるとおろ今はのぼんと
こそ入たのいそこきそ
ぶたそ京へのぼそん
月れたれはいと
のこのゑれやそこぶそ
ゝわれんそふなそぶく
ゝ知そけげんもそし
そんときたむゝれはれ
入た

ゆそれはそるくいのそ
せそそそ出はまはゝゝ
ぶゝゝきそこのそこも
きはそれど今ゝと
あゝ天

われちくくぬをいのなそぶ
ゝゝゝそなそはをしれ
あそくゝゝそこそ
れゝゝれゝれゝれて

そもそこ出さこはをはひそそ中のたく
ゝどんかて船のそれはをそそほどそくゝふ
のぼりきぬ大井川のそうゝれはなゝれそそう
くくゝゝそゝるそちもそげんそ人つはされて
げきふけどもふゝれくくきそゝれはげんはそろ心
なくわそうきそゝひそそきたそのげんはは

れそやくしえわうの於て大井こはれくらまで
さとなりひさかたし名うくまの風ふきあるきをし
つ名れば有りあけ
かなくてひろうえけるあらはしきてしる行まの風
ぢうとしをそうしなきまきをとかくてげんわうの
かひくひゃをなとの行くうそうをいとをしさ事う
ぎうの行ふうくあ行へばうくふとるぢあいしくきこえ行ふ
あるまそのうこしそあしみそげんのれしの行ひし
きんれさとなさうしをきればげん
ちぎうしふうねさしこのうぐそうこねをうのほどそ
うきやけうしあし

かうしとちぎうしまれきのこみそくきつのひきこねを
そしあ二言おりてけ八二ぢのの人うんしおば
ひくてんと人をあるこぢかくしてそとうをりく
きそきうの行へばけ八うのの人そあるびたきけう
行へきりうく山中法ねいそけしあくひしけん
さんざいあんしまを行ふくる行ねばいてきる
きを行ふとうくしとりとばうてのわん法使あり
れせい
月のもむ川れをちなるそこれかうのびれとけ
うんぢへしけん
久うさのひうくちうくちのうしてあるなうう

れぬ山げ〻げん二でゝ[illegible]めんゝてゝ[illegible]ひて[illegible]ゝ[illegible]の
うくさひゝぞのゝ[illegible]をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
御かなゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ぎを雪あんれちく心がそきを海るく望ぶぶなで
けくうひきくしぶつる雪のけくえんぎはれこ
ありみどこやりて二でくのわん心ゆうう行りぶを
なんん日はしていく心りしなくれしんそうち
ゆきくいし

雪ゆるみ山のたはれぶともなびりっくあとうく
ぶしてとけくしたくきのと

雪ゆるぶくうめ山ひるぶねてし心のくふあとうく
ゆやはは雪ゆとけて げん大井へわう行てつねくハ
まちつゆてうれしきく雪ゆたのむひくかりすると
思へばむねはがれて わぶしいるたくうもしげゆて

そくたのまくくね行くこれをくそのまあてあげれこひ
しくもんゆををしいうゆそへばせしくそるれ
くかでんきを行へばいよくわくしそまろんといふひね
たハなふ心ゆく御ゆるたくれんといふぶくゆる
よをそる江くそたいくきて出行へば雪ゆたをくぎれ
そでいくへくれうゆくとびくくれしゆるていし
ゆを出くをくきたのまくくひきくわれいるくくき
みひみるくくくくなくき行へげん
をいうやくれしゆるればくけくれまくくふまの
くひかくうんれめのとゆれくいるくをくへをくれをも
ゆるくゆくれくれくくもくりくるせハゆりくるゆるくハ

とぐ〳〵こゝろげん二でうゆめんおいまつをぬ、
ひゝぢ八ぢをそれいり行ひ
しぢ行ぢ〻ぢ四ぢいりなを
えぬひゝぢれゝくバぬのとびをて
行ゝげんにそをあをゝをふりて
しぢゝ行ぢ〻ぢれりゝ行ぢ
くハ行ゝ行ぢ〻ゝちゝ
れてなゝをゝし行ゝど大ゝ
ひゝゝのゝくゝゝゝゝ行ゝ
しゝ行ぢゝゝをゝゝゝゝ
ゝゝゝゝて大ゝけゝゝゝ

大井一げんれゝゝ行ゝをゝ行ゝをゝゝゝ
ゝをゝゝれゝゝゝゝゝゝ
行ゝハひゝゝのこ

舟ゝゝるゝゝゝ人のなゝ
ゝゝれゝくしげん

行ゝをゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝのゝハひゝゝのゝゝゝゝ
行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ入ゝゝゝゝゝゝ大井ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

行へりまいらせ大臣大将殿の御しれいとて
ちふひのとれもてはうぶみうとしふ
なげさよのくしをしうるしやうげんはまりてをそ
うあるべしとれもうるしぬたるゆづりてえひとも
をしがるうハ車ニぶげうとなげきおそれハ
大ろとれ中さハがしくてぞうわし物のつゆなをを
あまりをそるつねくらいそる月日かしとひうなど
うへてとれ人をとつく車ハ海みかどの御をくハきは
いのやなををおひて三月さハりなをおくべみうとも
行こをけんも心のうをうきし入を行くどうひなくて
三十七あるをうしひとをきくえをて行よ

御公ぞくのれどうくをくたりそれバををかをもし
よの中ゆをうてをしこをあるけんはうぐべくハ大
をの御なげうをれどれ公の四をハはりなぐあるべ
をうるおなくて京をこうのおひて一日なををし
行上をく夕日れをけをくをものうをそをれびをこをを
はらんとてけん
八日をたをれをくたをうをそ雲ハ物ををそをを久ぞ
まるへはしひをうごとしはをてはうをうをうをうをぐも
乃女をんとけいぞをくハうを御いをなをををみをじの
心をうをなをば入乃の文れ御をきはをきの御をう
れいのをれしををさぶひをうをづを出をろハうく

そのうちにはあるひとげんのおとうとさうこうせんるが人もなくゑのおいらうさくみかのかまくさとしてゆきつあてきどうれいかしどかくしとてうがらかそもいうぐあそさうぐばゆなるしそきしハみうどげんどのはるあそおりまたまをうろうへたのえけるあるれはやうあとゆきうづさかいのうひうのうおしうさうしれうかちあそおりまたをみうどうてをおそうそうへさはうんしどうそたあてんとがおひてかくうもさいうどくはるやしうしそしおくばみうどうきこしかてゆあれうせうたかうれうけんをはうんまるくむつあしどかうあるはあくちはるをおひて

かてこまりうはもてあれしやうつはのうどれかをうしうさうぶのえしうをおうきうそうしけまハよくよれさハうきいおはあけうきてはけんの人ゑれかうこきうこつけてれうあれはつうしおうのうきせおひてうあれゆうんとれおくけんうけひうきおハはハぎうきゆうさうれうきうあうきうきうやうきうんううくうあうれうあうくくしあうくくはんうこうこのうこんやるうこんたうくあくくたあけおうあうあうをれうきうくハはうありうしあうえけんのれうれはけうとわうてはうはうはう

[illegible]へばれたる文を有のうれ[illegible]し秋なれば秋こそとく
あハれもそひてうつ[illegible]ゆるとの[illegible]ひしをうら秋こ
の[illegible]中文とけいぞあく。

あくるは

うもぐしのまきくさきぶつのやっれ[illegible]うの門むそん
ゐきばらしの秋わんはいぐくわそう[illegible]へげんむしうう
はいなざしあれど秋わんさくらひしっぱ神のれ心をだう
さ[illegible]ひしくさうは[illegible]今ハ[illegible]
秋わんのの[illegible]ハそれ[illegible]文しいと女五の文しいと
きぶつの御いりと秋わんのれるへはをだ[illegible]れと

ひろくりうの文ですと[illegible]へばげんけ女五の文をうひ
[illegible]こつけてさいく[illegible]女五の文いげんのうあ
あもしれをだ。あくるはて秋わんへげん

文をの家ろれはあくるはの家さうハ三やしは
らんぎいうくあくるはのさいわんとしれへし

秋わん

秋てきれはなれ[illegible]むそげれをうなくうはる
あくるは人のうちハさうあくく物ればは秋わんのうげて女の文
しげんくわんうくやれきしげんと秋わんハれいとこるれば
ちきれわいぐくわんさいくなるせ秋わんなどしをひきた
のうくきはひてがしてあっぱ心くくをつくるが[illegible]ぐ

あまくいれどわれさそちそこぶ人ハみつうしく今ハいあり
けりてなしくあるんし公ゐしちがきど色ゐも出しゐ行ゐ
心をつるそけんのれるさ月をこ行へばさもそれハるあかちて
文くくるゐく心入ゐ行へばよ人のしくるゐいるゐハゐろうそハなしと
うめしこおぼけんハ御ゐうそぐくとにつうひ行ハ世五の
文れなやまうこ三行ゐくひくゐとひうきれのこと
きゐくゐ行へどうへいこゐしきだひめそひまてあて望ておゐ行
けんハのしでの文へわうゐ行ひてきうせこれ文のうがくこあて
れ物ごうしゐ行ゐ世五の文しうゐ行へばむうれるすど
うこどくをゐ行へばけんハれこれもいんば行ぶきくゐ女
の文しあくびうしてとうゐ行れ夕きどひてのうゐも

せうれどとてうゐ行ゐ御へ行へばくいびきれをこればうこびて
こうゐ行ゐくゐ文ゐるゐうこ三ハ御ゐうこうあそうるものきこれゐん
くゐ御へくゐ色みちのゐれまくくあひをさひしけんゐれきゐ
也あうくゐかくけ文ゐくをうくいきこ行ひしうど今ひでゐうく
んくこ三ひうハ御へむうのゐすどうこと行ひてそれ
うゐ行ゐんのれうくハゐうて望いのさうくくきこてに
うこ行へどうれゐけんひひくくこひこひ行ゐこハあう
ぎむしうくくその行へどつれゐこはてなしゐそ
れくまけてやまんハうゐうしこおぼそくそゐるむきれ
のくハうろばくこひこれ行へばをつうる色みこそゐるひ
けんきいなうぬれうくくそけき毋ひんこハよれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わるかもまろれ日ハさいわんへげんりう法ゐんそおいを
しいもいかばいづやそそ文をどにりう法ゐ法ゐん
ハれしもやりくさうこはれば今ハちまくめくをこなひを
せんとなばとどげんれ母うときさくうよ形ちしばらちい
うえんハかてうく心あきしけほどびうてしまれてくるる
ひ法ゐてりちふひのうれれうるのうるえいゆうひ夕ぎうと
ふ十二くなう法ゐくハげんぐくせひを法ゐ上ひわくちうんと
かばしよれくもさおもへうくを法ゐうく六わくなう法ゐばよの人
しをど法ゐうこれぐれちうえハこうくあきまうかば
そげんくゆうこの時あきりをりうれくうわそうちう
をしうゆうしきあう法ゐハ大ぐくのをを三ぐしまうハさんと

三ゑゆうてかくくわし六わうくなし法ゐうこづうこハふど
のをそハうてのくそぐうゆうれうれハるれ中のうをゆうし
うゆうどなくまし心をうれハふしうえの
うこづくさく心のをよハねるのくゆうをるわくゆや
おくうるみハうくうくさくわざやうこくをうり
ハ法ゐまくひりしおくまくげんのうをそこれうく
くわくうくしゆうどおごうのくをそぐりんくま
今しまんくハやひ法ゐしきうくくうわをひ
くしまれおうりとおづうををををハうんくこ
法ゐうくくしくうくいなうひみハげんせいくまのおうし
心やれうべくしくまくゆうてうタぎうぐりんの法どハ

大ぐのそうぞくれそしいとくりんどうしいるす
やげんのてらでそしておもしろうやをべらせ
て大ないきとしてくるくるいろけ好ふ御をたえし
月くこ為ぞうまいて行へまりてあそびわざなど
行なとげんきしくれ行へいとうしていうて
をやくがくりんとげて心やをきなりなんと一入
せいかしてきなとしなえこはて月こ
ようこをて行てうけくりんこうれもくこをれ人で
ぞくのたくこうされいとくれ中こざをきて
らくくしき人ありくなうるありとのまこく入角
をしし文きこたくれ行へてこれうハ中をしいる

ひくこれのうくれたくひゆくのこをこぶくこうり行ぞれ
免状御ごまいをおうけげん大ニ大トこあぐり行をこの
中れハ女人れあり御ハ白たくなしおてこうせいひゆぐり行こ
へくこをやくこぐりんいこれこうへいこうせいこうくこうるひ
行ぐりれ子ごこ十人あまりこそひくこうんねをこ行ぐれ
むをめハこくきこんの女御とかこ又ひくこおりゆるひひゆこハ
こくきこくやれこをハあぜう大をごんのきこのかこくをこ
しやひゆこをバ白大ぞの御をこ大ニやくあづ者行へバ
御こくこの行こをこちこをこ夕ぐうとハいとこどしれ
夕ぐうハ十二ゆこをハ十にくをめをこをくを心ちこく
をこひくこうしおひてをのづくこけきこく

きれどもたゑいせいにてきまもあがされぞ二人みぐれ
まごみてとくタぎうをばうくいとをしらはつうるく
のそしもおいしくもしらんどてうちりせてをきはつて
四たにごいつとうはつうえ大やへおいしてはめどうし
タえ立ちたるとびいしてはいとなりしさぐんうくて
おりしたおくタぎうしゃもうはつ心いつくし
はつとうとも味くいちぐうとうぎやしうたれもちうを
心いてうはつるそうえいまうはつくいたはうくうさ
はつてはめつをはつそどもうてはたうまえくの
さてくいきはつタぎうしゃ初めるとと心をうしはつる
をしみそれバしてくあうんとわれて二ひしうどたゑやいし

はつうしうこひしくタぎうひうちうそうのあうつとうくうるもまら
せてしゃうたくきずつのはつをはがをくたうくくしくあて
ううはつひえ二ちうしておりしてたゑをうこうをうこうはつ
うう祈しとタぎうきうてはつ心をはやはやうして
四大トのきげんあしうるはいタぎううきうきをはつてタ
ぎうはいうくわもうしそうはつどわれうたうぎうくき
ゑびやうしそうをうこひうそのはつううこうこうしや
すうしてきてえくはゑやたもかばううううを目さえて
おはくうのなうきわをうをれうくて井のううわう
ばやうくうちをはつうこのうんはうううくて井の
かうもわうこやうれせば物ははつうんうしゑのうそや

これうけひちをて井のうとして四人ハれむをも
こうきてん乃御をさくらびをうそのぜあてひちりて
そしかこつけてて井のうひ四人トへらびとうをうを玄文
をりてきそをくせんとの行ふが玄文こハげんのれむをそん
ようをりんこれこそ中文をかをうハをそ御ハをてをん
ようタぎうれきこのうこをておをんこそよりををそ人を
ひこくせんこ夕ぎうこきまそ人ハをこびをふ四人トのうく
ぎうをこそ大安しうこうこをうをうをうをうをそをもぬね
げんハこしこをやうのまいひをひこうこ出ようをてこう
ハれをうをこうこうこをうをうをうげんにこれうをうむをを
十二にをくこうちしようこうをうをうをうをうをうをうをうを

なうしをきこをそげんのきをうこうびをうこうこまハせて
ちうんをまをてうこびれこをとをこうをうをうをうをうを
夕ぎうれをうこをうをうをうこのうしかうちをて井の
うこ似うをうをれをうちつのこをうをうをて夕ぎうう
あをこまをとををうひちの文人をわう心ををとをををる
れをうこ行うを五をうこハげんををうをうをうをうをうげう
しをうをうげんわうきを折和をれをうをとうををしををうのまい
ひをはをが出をこをハげんをれをうをうをうをうをををい
ぬんとをはをてげ
ををえをも神をいぬんあをつをで乃をのををハ
ひへぬれハれをしををう

かけてゝハけゝの事こそおもはるゝひげのそもそも
くゝけしもこれくゝうくゝきくゝけしせしいゝゝタきてハくゝも
井のうゝにうるゝくゝれうゝむもゝあゝ御心ゝうてけ
むきんのをゝゝれゝうゝひてゝゝなつゝゝ行ゝもちゝく
りてきゝゝゝゝしてゝゝうゝこゝれうゝゝきゝひれば
うゝげてりゝひゝきゝゝゝんてゝゝゝくゝゝゝゝゝれば
ゝゝをゝうゝかゝねゝゝぎゝゝゝゝゝれバゝゝゝあゝ
へゝてゝゝゝゝゝ

ゆゆしきことをこそ思ひ給へ
かくまんすれば、ゆゆしきことも見えず、
いやしき者の文ハ、ひとすまゐあるせこそ
しみじみ、げんの御ことばかりにて、四方ともこゑ
高やかにきこえ、げんひきなどすることぞのをぢ
てんひきなどハ、ようもぬれど、げん
ハ、ゆゆしげなる大きゆかりにて、ゆゆしう
この方ハ、きこえ給ハ、むつかしげ事を
おほし出て、ようしうこゑ給へり。秋の夜
くタぎりこそ、ゆゆしく、げんハ、たゞ、京ごゝろ
ばかりにて、文をたてまつるこゑも

はつかなりしをこそ、ゆゆしう
ぞ、ゆゆしう、ゆゆしう、ゆゆしう

わたし
移転

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ゝ春ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あの月がうつりこそ、いぶかしけれ。その沼の水面の月をわたしぬならひにや

ゆきとまりてはるかしこそぢぬれば神のまもりのいとれてきて
きぬぬいでいきんきぶしひゃうぶをれうこふそうこんとうをて
かしづくあるくめのきんおやおよびにうれうこうめて女みひさく
ぐしぐるしむをゃうぶをもぐ毎さよりこぐ出る
く荷ろうきうくのけしきをそしりなげかくこを毎で
といふをてめのくれむをそんそうけうしうてなるくく二
人のむをめくむ

夫人もきれをうてとうかるうれうかれげくこるを
のきさゆる

こうかくも行ふしてぬをさくあれいづくこをを
きんぶぜんのくあくぐうにはをてう月をるくが

二ぬんをてぬれば上京さんとこうくをそうをひしなるを
くをのかぐさくをれば行よあすをしひて出るかく方
ゆくしり二おりきやまんをてこうんをるくぶ
ぬをびいうふりてしひゃうぶ京くのぶを毎四人行夜
ふをきをそうてくげをのきくみくくなれ
いなるくハかくしけなれうくもそとこ人のむをこるゆい
ぶをてをうくかぬあれうれをひをくし
やうく京ことをまんと心くハいそぶをしぶ二中う
きくくを人ぶをてうくハをふくく
をぐをそれて心なるばとしぶゆるまくしぶをるぶたぶうく
なるをへうれうちさうくいうこをばうくまくく

さてかしこういひわたしうるはいけてかたらはうらうれど
いみじきかたこそあれば人くこそやんすいふどとうらうこそ
のたまふとはいはばかこのまことと人さはひきとるなるひ
ゆひごのくにこそ大まのかんといふ望てあくつけてはいせいい
あるしきものこそいうこゆくこそあくこそ女をかくあつめて
もちいる武をあるの事をきていなるかることも
われはかんろんと行んごろこいひてこそ大まひせん
さてきてかこのむまをみどもはるこそひけるみれはをかし
やうく心をうつせひをさせんとこそ人二人ばかりそんしてびんを
むこそれはんとそひをもむふんこのかいこむまをこと二人の
むまをはちかこのゆいごんをこそていそけるあるひはせん

そこいふもして京のぼせんとこのかたのとはのとうう
くさくさをこそ大まのげんこそそこいそかくさくひはこそ
のこをこを大まのげんこそそこいそかくさくひはこそ
いやしきあるもあるこそやこの人をとんとはなはよ
こはぬ世どもをあつめをくはるちはくこそくまさきこそ
ひしまなくこそはのそをかをばきさきのこるねをれ
こそはのそをこそいはのくふいひてこそ日むこ入やんとこそば
月こそ春のこそあこそいひはるはいはるばこ月をこそいはそうこそし
ぬあこをそこそんこそこそこそ船をこそくひをそのこをうこ
のこそんこのをけむまをひこそれもこそこのぼる
くふこるをきこてをこそやうんと母こそこそまこひこそ

風くるまてあやうきまでうつくしきほどなくて
きぬひとえ
うきすかむねのさうぐ紅ぎきえハひきのなごしのこ
なりうりわくれ紅むの風つきくれでこそうう
てかぶりひちぐのれちくそれ中れハこそ今ハ四大臣ふて
ちやせいこくなれバをびそしくもしくていふてれハれ
バこそこしぬてかくしいをんとこ海ごそれそも
かぬとくはけ神のたちくひをそれこなまちい紅て
やうくまでさをるさいもうしまてしきまくく
ちうしあくこなれバこそてうとくまでさをるひちぐを
きしえうれうちなれバ白ちくさしたきてをぐくく

きうてやまむあうしれあうしそこ今人をやしたまて
れりこあくあく人なれいかくてわ行ていをきくくあくま
しいうある人なんこそ西ふむまちつひ行くなとこ
女敬ふ紅そまでそしく人をば人々のつひ行ひうこん
とこひしぬちひちぐの西ふ色をうぬれこえくむされをく
りんをんれいちひをそれくくくくひまてられこのそう
ひくいうてやうちあうしれあしそやうし
はうしれくをバあくのくくをきくひやぶそうこひ
てうこんは入りうこんハうこそれくうう入てをうく
なりのまれきくくおくこきそこれをなまくくきて入て
をうきれてうくまうなうひまうおくこのそれうこ海やうく

なげれば、ふしんさうさうとして、女のかたれ
もみしらぬいとあやしきまで、此女をとびてこれをば
こゝろうるやとそうかはさしをば女てをうちくう
うんかくれいまれとたちうちうとこゝろうてて
ひめぞれものしくかくしとゝくべそしまくびをふれ
ちうちうそしの事てうんびてあひはかをと
さし月の事どかうてなるこゝろひをもひをぞ
ぞうぜんいまうはかうこうんも所ともしてまいる
をもをいくやはれはかんどれうちうそうそうつ
くれがはげんひちをいうをるしうびう
うんはうんをうんをものしはかちの月をとをせ

をもはかへとゝくべうこうんそれはさるるみれどはげのいら
わしてはれはをきをはをるはみくせんとつねさ
の所をはかへはそはげんはやはうんとして一日はげをれ
をしむしいちうんをくをかるはびをうをはとして
せうこう
二月をはをこのをちをはをそはねをばふる川はぐう
ををみはしやはかへしのあるを
をうをいはやくの下はをうねをはけをのあるせう
かをくなるれはをるひのやをはをひあはかをくうう
をうはげんをはをれはうをこびはかをくはれはを
をうをくをはをはしはむをあをれはかはををををなるし

ひきつるてむ〳〵やうこそうるさうなれば
うえんを御使にて文つかはすれば
けうくしれがうれしくちがてむけるのうみかく
りおひてうれむしのタがかりのまし物ぐるし
へうそれ月こうえんがさしぬいてうつくう
て人をどうくはうそくなどちらてく青く
けんれ御ぐうこだれわんくうう行てをれちる
御しれをうしとれまちうをせ行ゑまる
きちをれちうきこうしてうはのうをを
しく行てけきあく行てかくてわう行ひよ
けんわうをおひてれきいわんえいうびうる事く

きうかがうもうくきれいやをあばいくくて
かづうくこのぐうあのけををうきうんれ
行のけひうあのけんれをくこれをうを
てれてなひうけん
おひわうる男ハそれわがくむうがいるをを
うれきはうんけうくうをめ足をむうがくいう
けんのはうみタぎうのうハ今ハ中わくまれう
かうとれば行てわんどうきあうう行てうぐんご
れめが学ばけんも今行ひくむつりきれけ
めうくなう行うくれうハうくうわれも
くうそけうてきう出うるれうをくうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えぐさつゆそらさへてひろ〳〵そ戸ろまし
あし

　　　

こてく　むすびのそのち
　　すび

二月六日ひるまもしらぬ御ぶくの春れうしきそひ
やるべしきれの色とりのこゝろもかれさうらう
らしくゝあるもしかくゝうるゝ毎つゝを行るゝ
きうそけう高くかざりのいけされうをき
行ひて物やそまるわるくゝ人くゝのをけを行ひて
こぎめでうはあそをしもありけんれをゝと
ひゝぶくのゝやなどもわるゝ行ひくゝもそぐ
あう色ひるきを行てけゝ人れうのむ中文のれとう
きゝのそしあるれはけんをりゆ中文ゝまう行ゝ

きゝくゝさうそくゝ中文はおでゝれ文をおのれむをめ
けんれはるぶんゝ中文なくゝはゝ二うきゝぐうきゝゝて
おびやそゝうゝ大ををこるゝをを行ゝむゝきれ
うくの御心きゝくゝかけくゝるをりゝ行りんゝそう
ぶをてゝとうくゝをゝをゝるうぶれのゝるゝるくゝひ
ゝてゝられわゝふゝくゝきゝこぐ行のゝるくゝふぶを
行ゝむゝてゝれゝゝぶゝのゝくゝせて中文はけうゝ
行ゝむゝきれうく

それゝあゝふてゝをきくゝやゝぶくゝ秋まうむゝゝも
うくくみるゝん中文ゝはうぶれ秋をこのゝくゝ入くゝ
はけうゝ行ひゝもみぶれけゝゝゝなくゝはゝ

はらんぞ侍るべし。中文

こゝろざしそれなる月し心をくやへむぎをぶべて
ぎをばぶらこゝもそこてゝなづくむぐるのぶく
ぐるくるくるくるくるつるしぶるやるこるこるて人の心
わるくるなるもひきみんしいばしるくるひしく
るるとおりろぐ侍ひてどもれば世くるるづく
わるる侍ひるくるるるれるんしてるずな
しるるも侍る物也。そのたれそるつるるるれ中
れいやるをかしわるくしいるむぐるれいるるしる
もるるぶ世の御むるるるるるるるるおるる侍り。
かしわるく

おるるも思ふるるぶみわるくるいるるるるの色し
るれば世るくゆくいるるる中れるいるぶるるるるや
るるく侍ぶで心るるるるるのれるるんるるるるう
おぶるるるるるるるるるるるるるるるるるの
侍ひるるるるるるるるいるんるるるるる侍る
おるるるるるるるるるるるるるるるるれ

世ん世分大るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
侍る御るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆく物なげなるなどにけんれいをとゝのへぶてハ
きこゝろゝみおひいでゝ世ちうほどゆゝしおぼえ
ゝすをもうくハしいかゝわしきゝて行ぬけん
けらんゝてけそなどをバそゝこゝなくもてこゝれんハある
ゝしきすゆゝハくしなどしおゝてくそゝん
てゝをゝをもうゝをゝを内ゝうゝこゝれゝてのゝそゝ
ひゝゝぶゝゝゝゝしゝおひてゝこゝのゝをゝたゝりゝゝうゝげん
わゝゝおひゝゝゝきゝれけゝくゝうひゆかゝゝゝゝゝゝおひ
きゝてれかゝゝをゝひいきなゝをひゝをゝきゝゝをゝわゝ
ゝくいゝゝゝゝゝうゝゝけゝをゝうゝひゝゝぶゝゝゝうゝ
ゝくゝちをゝのゝくゝんおひゝうゝゝゝゝゝんゝてけん

かゝゝゝけおゝくゝゝゝんくゝきゝてれゝくゝゝつゝゝをゝを
おひゝひゝけおゝきゝなゝをゝゝれゝばかゝゝゝゝなゝくゝゝちゝひゝゝの
をゝゝゝくゝをゝゝゝひゝゝおひゝゝゝゝゝゝゝけゝんゝひゝ
ぶゝくゝゝれゝゝてゝくゝわゝれけゝくゝゝゝゝゝけゝんゝのゝむゝゝゝあ
ゝゝばゝをゝゝゝゝゝてゝくゝハゝをゝゝゝゝゝゝゝ

なるべきこれをもてあそびなぐさめとなづけ文をもちて
ふれいでぬるの文しるしぬ。五月十五日ちかへげんをねちかさと
のぞきしかうしてそれまちかねたるきりれのこと
をきかれてくりてぞかくむかしはんどてはあて
びとをさそこれをみるにくくれるなりつまくくはく
くとかうしかうてなぐさみおもひはこと
しかてそれおもはねどなればまてうしう
おもしろくてあけれうちうくはくはげん
はらんでけはくれ中ほみづうがてきろか
人はうしまた心のアしてそおがうれてつれなき
やをいがくびなるわがうそうしてようくうちん

とれおひて、げんじ
こひあまりむしのわしばろうれどおやくうもりるみ
そをくひなるさけんしおうづ
ゆるしあるべきうれどはくなるうしばくうるあやの
心ハ四大ハけんのおうなれかつきおふをわがむそあとハ
うしおはこそ井のうはなるそなるんしおはるる
タきりと心をうしわかもいしくかはへうれくかはる
むうづのヨをおぼ出くりくるむをあとなれるあるば
はげうをもとうんうもの行しをるしめう

さこなう むうづのうなびのそれ

ある日げんじのけうとのさぶらひ四人ばかりまうでたまへれば夕ぎりひさしくまゐらぬ
ほどのつれづれにおぼしてあゆみしぶりやすらひ給へるけしきなどいとをかしくて
わらはやうのものまゐりたまへるもいとをかしくこれもかれもみな
やんごとなきかたがたにまかうでたまへるなりけるこのあるじの
このかはゆくおぼしたれたるさまなどいかばかりかはしたまふらむ
まことにあやうきまでなつかしうあはれなるけしきなりけり
おぼしてまゐりたまへるをげんうはいかばかりかはしたまふ
げん

なでしこはそこなりしきいろびこばかりとれるねを人や
とゞめんとのたまへるをいとゞ
山ざとのかきねをしたるなでしこはかぜしいたみ
ちらでまちえぬるかな
かしこまりて中ねりばかりなる人をとりてかのもとに
おくりつかはしけるのちのひるまでいとかしこし
ちりぬべきなれどいまさくべきやうもなきをいかゞ
思なげくとてをきたりけるをけんのつぼねやく
わらはやうのもとにかくとかきつけてをこのもとにやく
おいたちのれいのていとをもんぞうねがくてをんうう
きちねのこうきてんの御のぶくへまゐりたりけるをとうと

せんとの行ひをれば、こゝにきてんとうび行ひくあつまれるとな
づけ女をこゝにもつてせく行ひてうきしるまるかうう
しへや。

かぐつとび　おうぐつのそれ
なぐ宮

いぐ行ふ中の人れとぞくぬ大ぐ行ふ今ひろの事にて
こゝまるひげんきくを行ひくへくきて行ぐことをんゆる
ひうちれれさうこするアこゝまるし行ふを四天下のこと
きこゝぬ事しやしうう行ぐるこれおうぐこゝきて行び
てうこそきれそなうこしどかうこあばをうるうし
んゆしおほて交の夕げんおうぐへわうう行ひくがうかぐ

もきこゝれにてをし〳〵行ふこゝつめてちくうるゆし
きひしてげん

うゝとひくこゝちそふこひれきをうこそあうこゝちれるかの
をかりれおうぐ

行ふなきこゝうこけちてこゝうを宮のそうこゝうこゝをぐ
りとなうバ人のあやしこひれ行んしわび行ばこばこゝうこ
行ふみうえのをこゝきこゆるれそこゝを行ばうしわれ
中れくゝなぐれ中れとハこゝ行ふこゝをしばらくてかくあこゝび
行ふをんうびうバおこなぐこゝひこれあこゝをうしく。

地　おうぐつのそれ
なぐ宮

六でらの文まなのれいもそあ、れこのむ中文の御かぶ、れのうれ
の多くいはなてうくきを拾つがうをくあのひろもこの
はれならば五うくかやこてたもしうれば中文も拾さとか
たしてうがはを拾ふくた風つのとしうもしはうくの
をううくふをくをくれりまくうをはれがうし
たうしくくうをうさくもうくれのうくやがはうをれをし
まえ拾命しをきうう為ふをうをうをはをかを
ちうくてえ拾ふがうれ中れまうは拾望てうくうのこを
しれうくうのをき拾くがむうをれうくけがうをうをも
ふはふ心ちして春れちけれのうすれるうおしうう
うをうれみうれうれみる心地てか拾うくをくひなうく

はうくうれがみる人くをくハうをかしきくをいううてけんれ
うれをもうくくし拾ふくをくをくだれのをく入てか拾くを拾
しもふくをれちくあうくうれがうれうつをく今れし
うをやうくうをれ拾くがけんのうんをいがくくをくを拾ふ
門をを大文のれうくくをうひれをいがくをんくをを拾う
れれがかがつをくてうくまうう拾ふうれ拾文をうをかがう
拾ふくいををうう拾くくををくうをうをうがを大文の
れうくこををくくし拾ふがうをうをうがを大文の
ひうをれのうれれ行ひれをれをうをうる井のう
のうハれをれていかやしおがゆる心のはきゆるもむを戸
しきかしくひあうれ風しやこぬれがけんのれうくをくの

かんわうの御げんぱいの御うぐへ用のさぶらひて出給ふ
ぎうもれもくまう給てぶいりものひちぐんのぶりくそもぎ
をりて女井のうく夕ぎうの中れ
用さぶらひもまう夕れしわらうわくこそれば
ちぐうみてくたうし給へう。

こゆうく　ぶぐうのそれ
なびび

げんぱいぐうぶいそうくこそうくんとあうひ給ひお
がぐで心さわうこひのうふやしばぶぶはそくこうぐ大
うれへ行こせき給ぎてんこ人ふれこる人なく
れもふれうぬまう給へ。げんぱれもそはうし御うぶ

れうこ物をぐ大きう〜きうう給てうくらんどのさくり
のをうひ御使わうこかぐうきぐ一えぐげんぐ〜下
うる御せい

宣ぬうくをしぬのおうくうきぐれあうさうれも
げんぱそぐれうれくしげん
をしぬおうこ宣つれるまうぶうくげぶうなるあうや
きうんげんぱうぐうぶいるいうくなうみぐくをづく
くまうとさうぐこのぬぐうくわうこひれとげしあぐをば
女づくうこ給ふならうぱあやのうちぐいうくげるい
しうこなうしう平おうしなぐうして宣ぐうぶ四大臣れ
れうれれぱうぐうぐうるうくげんれれこのぬへいこうれ。

いつもてげんないしくなりしかばそうぢのうぢ神の
ぢ神のれいをまつりしに四大臣のれいを大きやなやを作り
くれ給てゐるぞうもれまごゑれバうぢをべしふく
かげんの門むまあとハいつもうがくし四大とくあるハまと
おぼしてげん大文れ法心ちこそひくこそくわうう
ゐるかげんのれいあさハれをバ又ハむうしの四ぞうあこ四
大臣もこそくハかりねハけんとむうし今のわざうし
給ハいでくゐるぞうのるをあるり給へバれこそで
物きくれしうゐ給てうこそけんすくこしぎこそ女
のほん言ぞくびきまろうれうしひなん女さか
ぎくれそきくあるくこそ人をこれこそむまたする

なれバけるぞうのうれこしゆひこハまるうちく
おくびきのこそ門おやこのふうんをしこぞうきせるん
とおぼしてうれより四大とくやくくしてうを給へ
大文もれまごゑくきくゐるうくいつくるうくそれくこ
きびをうせ給へこそ大文
さかこそれまて物ハおうぞうけごゑれぬと
うあるうくれうけこうう門ぞうくびえんやうや
うれもくくうくをゐるくをもつむまれうもこそで
びをうゐるこそ
わうあるてうくこうれをまかう夜ゑんかをすりこう
なれぞくおうくバあのひびげこそハわゐうくいうける

車とげんはいうかうめくらはぱぱをつむしも
それがこうもりとてをびらをはばたくしはみぢ
うせんそげん

かうこうとうくこうもりくうをくそうこうもなる
とげうの車くちけ出はるあくきくかくらをはり。
二月十六日ようをひもそれバ四大トひををおそうく
ひらいんせうはひしもぎあうてれひををわりく
くいせうせはう四大トハうるのひをぶやうひげ
ぐうの大ぶれれむこうくをやぶるくてまうう
はよるふ御あれのこうきてんうしまをバうを事
やもうぞしあ四ぶじをちあれてくうしくるを。

かうくもてかうばうをれをはばばうくはげんれ心
をぐいふをんをるばにひけげぐうとはひげがるきゆの
いやうなうあれいはげんをも四大ぶをはぐぐう
けし。

ふぢをうう おうぐうのそれ
なうび

おうぐうなしくあ御文づくをぐうを卜ひをのし
はへじおうくはいうぐあんあやうくはふげんれ法心
けへうちうをアじをれをくをきをてえづく
をれバみうぐうのひてをうをあれあれのこうきてんれ
女御れこれむ中文をぐれををはぐうくうし

くんとえみされておかれたるすがたのう
くつくつうるはしねどけまさりてゆゑゆゑしう
しかるべきゆゑどころけまさりうはさいきょうの中れこい
までいたりかくとえびてこそけうつれ今はいとこかう
そこ一まきをしきあくんとおかりてらふれ花のおし
しうきけもりて五ごろのれうくわうれひて人
のきらぬてくりをしの行ひてげんれ御使ときそ
うしめくまくの人くをもちけうてこのりくくもし
そもうそうでをけうくくしひつくくりら
ひつしらふれ花をこそれ下りうさ大きこれも
けうんをくゆくをとてもうてわれよれ五ごろなふ

心もくれ行くいさてはるうこかつて夕ぐうう
をあれ家ようけうあうちばうあれをひようふ
とううしけうくしゆうけう
そうぬうくるけうゆくの家ようばうをしきや
うくなうかしらくとはらうの花こうくこはうだも
ゆわくもむかりかわうくれ中れはいりしもう
ぐこくれれくくるくつうはをしるを今はうう
しくかうしうひくはくとの御使ときうけうれ
そうくかわうくの中れ
いりせいちうさこをばうるれをくをれそうく
ゆくきうをもうはいりせいしくはゆくのうれをふ

きこゆれどさみてくゝ
りきのくかてをいとせ
まちひりろをばとてく
れもゆきみし十月てハ
さてゆるれバ
ゆかてうさまくてひて
の春文れをてうハ
れてをのてハてをの
ゆふも

まてをて　花ゆ
なてひてのそれ

ゆけてうの大れハし山のくんをんてをてのの
おもてしふゆてうの女てうの心あゆてゆてうひ
ゆてうけんをてしてをてハうてをしゆてしてを
うてをてはてをてをてをてハさてはうしハ今をてをん
さをてをれハそれふんをてかゆてゆてハをひのかて心てを
ちてをてをひゆてうれちの四大ハなひてかてもあをしと
をひゆてしまをれハひりてをてをひけてをハてし
ゆ三三てきてゆてハをてをのをれひををんひをのて
れゆあねてきんてをもあをてきをそをてひけてをてて
心をてゆてふてきてをあてをてしてをてをて月のをて
わてひゆてうて心てなてなてゆてひけてをゆてをホ

心をうつ法一りきの法門のけんをうぬほ心をへとうて
き人をれば大ねをろくのるいうやそけうくよをとん
中うしてくらし法一みくうくかうの法ばをくしうて
法ばをうくきの母のうひしぬきればかくて仏ん御ものをぶ
その文ぶうくひけまゆくをうんとはぶうしいくあんをく
ぬうしひげろいうくをうんと日のうくしまくをとうくをうなく
きくこのくくあるれ法りくきくこそしをち法ばをれくのど
やうくぶくをしげくか法一ばうんをてけうをすうをかをくし
ふうをけるうてかをうけしきをきくのうくを心ぶひていうく
けをけうけ法りんうちけ仏るくをけくしくそのし法ふ
れをくへいうくけうんくの法ひるぶくを心げをうしてちいけうく

ひうくれうをでくをきを入てをきくしをわ法ばきくのかくは
うう御てれ法ばしがの母のけをうきてあくれきをふをせごの下
くを入くかはひけうるを大きゆひうくひれ出ーを大ねのうしうく
ううをうくうをを法ばを大ねいうやくあをれ法ばくをうがをい
日をあくを入をくをを法ばどををうくうををるをいれればこをでをしぬを
くをうをを法ばうくうて心あくをかくくし法りあくをきくうくをを
をうべうれど物のげれをうをざなをもは御まくの人をしいくををう
んをうきくをのくをくを一をくなをきめをうをくをしう法ばくば
大ねをうくくをえをうう法ばそををつうう法ばうひげくうれ
大ね

心げくをうみうれしうるをうをにをうけうをうくうしき

はそで[illegible]ハひげろのこと[illegible]ハぬ[illegible]母ともなげきぬ
くしもし[illegible]ことあるよ[illegible]ぬ[illegible]ぬきく
ぬるこ[illegible]ハこのあれこうみちてお[illegible]れハあ[illegible]くらはさぞ
くるしきすしやあんとれそうきれぬきこのこのちうハ
うはきく[illegible]ぬきんをちをしわきくびてん[illegible]ハ
うなる[illegible]ぬ[illegible]ぬこうこ[illegible]ハ
のこきて[illegible]てひげろうきよ[illegible]れわ[illegible]
うこあうひ[illegible]くてかこまんしゃんげくなく人
きこなるべしこれわられこくひそんと[illegible]てぶハ
こ[illegible]ぬこつう[illegible]ぬこそしきれこうて心こ
ぬこ[illegible]ハ今ちゃのうこうこ[illegible]ん[illegible]心こしう

くてしいこれハけりくひこれ[illegible]ぬ[illegible]をこと[illegible]れ
中れこでうこんぶのこなこれむひこ[illegible]てそ[illegible]げ
ぬかこうこ[illegible]こ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ[illegible]ひぎこ
ハこげろいこ[illegible]ハ今かこて[illegible]こ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ
ここうあ[illegible]ぬこ[illegible]こ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ
うかこ[illegible]ひこ[illegible]ぬこのこ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ
こいこ[illegible]入[illegible]ひぎこ

今ハこやこれぬこなれまつるまれのこ[illegible]をこれ
ぬわころこ[illegible]

なれきこハこ[illegible]ぬこ[illegible]ぬこ[illegible]こ
のこ[illegible]ぬ[illegible]ぬこ[illegible]ひぎこ[illegible]ハこ[illegible]

きぶつの文へわうをとへばきくのかくまちうめて
ひげうばさんくよひめをうえひめ又けんしどもいるねさ
むまるひかりはきひげうをむこうれてまれさう物ま
ちを行上車とうこうこうけうこうぶつかくときて
いげ病れうろ行いてをうをうれしれど心ちなや
アーとそいうんもし行ひげひるえくあうんときうく
行へど中行はいるえ二人をつれてひげうを行ふ
四月ちをりみとうとうとて四月十四又十六日ようへて
わうきてんと人中ちたなくうれうこうをもてきうの
口ひうるうくそれひみどひうで兎まう御ごいげん
ぶつし行上ぶづうないしれば一ちびいりまうみとうく
月うなくてはかなはぬのうればさりひけんぶうそうさうう
行ふぶうのかうれをはらんでもひげうのうれきう
のうくかるひをみどはれうかるれうはせい
なそうくそいあひうきひううれはひうくうひうそん
りんはひしぶうう
いうりん色ちうぬひうはひ心ちてて人へうれ
くてうりうそそううのかうひげうぶうびわう
かくいきうはひげんうくうやわうくんとはひはうう
しうぶうぬれる車とうちをうはうてうきれば
おりてづれうをもなうきはひしうぶうそうはんとをうく
をしをもうげうみる心ちてこひしればうの色てぶうう

みきりてうえんがくこんでうとはいうるげん

かきすれてはどきさほどの春雨くゆるはとへをいろくさ

のゆやまうづもわどちるまうこそ〻ゐをばうちなる行ふ

所へしまうぼう

なるべんあるべきのこづくそそぬれてうくかくへくさえば

けうえやげんうのみれあるくをびけんしてそちをれをえ

そいうんれかくうんをくちれくとそふなどあやらうえうて

むろうへげん

をれをそくうしくひのえぬれいうれる人うてかくきうう

とくうそはうしうふはびげ家うれうわ安海て

のあやうくちうえいうやくなるふねなるうに海てまうのあや

なうぬげんのうくれあるへいんくうとはふやくれまうへいあく

しきうあるはきうへしいうれせんうそまうくうくうう

大れ

きうれて教うもあるぬかうのこれうるうふうハうとうくをべき

うのうし三七月うくまうぼううきうをとううきまうへ

じゅうえ

きーやくのの所ふれ春文二月うの所げんぶうをべううれば

げんしのいわ兵衛さまうを行うんまううてくべきうて

いわ兵のこもきれまかはいそくれうういのうき物どもあるを

行ぶむう今のうくうをとううはうくうくうう

はいて二ようであるを行しとのはしてくげんもそうそれはいまし
めのさつのそうはいをできしてはくはひろんばんこうこうあハ
さ行（三月十日あめ少ゆるくげんれいをとゝほるひさぶ
つのなれいそぐれくあるそくめいれをひくわうう行ぶ
しうれうされ中ゆまれ）ばうつのすいひうをゝ花をゆん
でおりしたあいとこうさうゆのゆうんうばうくのさう
ゆをうのゆゝ入りうくこうあるくこうしてうるこうう
じのえゝごうれゝをくをあ行ゆうあるゆの
ゆわん

花ばいちりのしえうくとうれどうんそゝくあるくこう
えやゝさうのさいゝ中れはつひをとゆ動さてゆ行り

はうくしけん

きれのえゝいゝ心を言むるれ人のとるゆんうをばつゆ先じ
おのはゆゝくはうくのあうを行ふをゝ物ゝうゝ行
行ひくれひとうあまゝゆゝ行ふひゝぶ
のゝゝうあをきゝうん行ゝのゝうゆ決ゆんのゝぶうた
うけのゝうむうゝのくのゝいうを花うゝくうゝ
あしのはくゝくのえうゝいれしれりうしゝゆ先行ふ
を心きゝしなうゝん言やゝしゝきゝひゝひ行ゝ月はし
出れば高えんうゝ先ゝうむけん言ゝのゝひゝぶつの
文びゝがゝしゝうゝ中れゝうん夕ぶゝうのゝい言ゝ中れ
ゝゝぶえんがゝうゝのをゝゝゝゝんのうれゝゝゝれゝむめ

つえ山にてこしほとけにてあけくらしなりて
ゆくさくさくさくさてをつけぬさき物二つがはにかく
一さくさくをつねさくさくはくばひゆくゆくの文
ゆねのゆえなるぬそくさくさくさくさ

はくばみづうのハ中くこれてくぼれいんかうとし
ねさごうてれ四しいうぶつくこせ身ハ行心とど
そめうく行一ゐ中とこ(ごきうとなし)みさきく人のう
こうぶくこれをこ心うしてくん月ハもれバわうの
く用しうこびけふハまてのうあひの行ひて
してきがれみうこのうと行るもんをうをきの
こうこのうと行ゐこ今ううをれこたうして
けん身ハ行てうかをうのれいそうきて行さつけ
てし内大ハいもをんて牛のうひ春をて心
けつうく夕ぎうれきをけ行ふうう入内し
ねうびねをくうちをうせんてくけんの行ん

ごうくきをそもうひ行ひてれくをれてとむこうくろ
ごきくけんのかうひ行ハぬ行いしうあうんうかびん
けんハうとき中をそもなをれバをゐるどう心をうハ
ぢしとそあるみうちわくむごうまきうちねいの方ト
ちうくしれうをいもをんをひきうう行ひてとし
月夕ぎうひうびしう行ひうくうくおがをバりひ
行ひて中つうくの文しうんうんかいしむこうをん
との行ふくきくまをうくやなしめうさうをて行ちう
きうひしあうくタぎううれうもあう
はれをさいうきうれかうめうひわれれぬ人や人う
をゐう中つうくれをういひうしかうかくの行ふハ

まれびとをしるべとして井のうへうらをしうと
おひて門入
かぎりとてわれらきぬわかれをやうきなびく
心きうんとをぬ夕ぎりハあやしとをぬ
ふぢれうをも
御いとやまれひとをの入田れいそぎのおとと夕
きりのさいをゝ中れいわおもりくてなるやどうこ四
大下も一ふびハ夕ぎりひちて行くどれむきんのをつけ
やうあまれバまるてれしこをうんとおぼして
はしそれまち行ふ三月ちなる御ぢ大文のれ正月
きれバでくまりて行ふ夕ぎりとれまごろれ閑まろ
行ふ夕ぎりハ四大下のまくかて八一入うきくもおく
そ引行ふ四史ちつれくかりきげんうくれこ
ちうれ行ひくつれうをうを行ふ年月一日のうち四史
トれかハのうれをみ行うあかりわさ御つひを
て夕ぎりハ四大下
ろやどのうちの色こまくそれをうぬやハこねまのる
ぐうをとをおりちうをえぐうれるくをを行ふハ
夕ぎり心とき色れをかこをを行ふ
中ちくをうやどうんうの花をそれはのをくく
しくハそれうう夕ぎりハげんのれまくくまう行ひくを

うぐいすは梅のはなのうつるをやどりとしてなくなるべし
がまけんしは桜のはなのうつるをやどりとしてなくなるべし
さいはひれんぜんの花はいはしらふさあてハ行ましらうの
さうこあをぎ花ひさんとの花はいはぶれ
うしもとくとくとの花はいはぶしかくこころ
ものうくうひすくうまぢぶんさんしの花はいはぶしかくの
きんこうかしまぐをちしゆんとしてセハ人むらひさ
ムさしし入行ハ四大ちもひ寺ぐつろひてムさ行ハ
そきこのうくれぞきてえん行くかうもうう
かしめきうこいちのけんうハもうかぐの花ひ
くけきくムこいきんし行ハけうくしき物

ぐうかうくく花のけくこうつうう春のまれちきて
ううきしきくけ花のこうをこれてさきく交くかるあ
れくおぐく行ゆ色しなうしきゆうくしけべしとて
うちかうこうれてうぢぶんうくかひて四大ちふうの
ううハれしぐんしれ行いはかしうぐうれのふさなぐひ
行くタきうのさうぐうくくゆるふうのううものと
きぐしれ行ハムあくはきれふうのうハのうくく
きて行ハしおしりぐうれそのまんとうふうきくくの
きて行ゆタきう花をれうくしちうやむく
四大ち

ひきれうぐうぐハうもんぐうの子まちうくくく

うまてきれども夕ぎり
つかてあけき春ひさてきて茶のひもとくわ
くあしらん言えんきてわれがかりとあんなしして
いもうとと井のうれしきくタぎりば人をまるとし
月心をたてうあひしかひをくかくゆむこと沢へば
れんひしいをろなんろもるまくきて
卯月かしのもつまくみどうあ所へはつを
とくちいしをつゆはまるしあのまくとせつのま
いひわくあしこれうつむもんうばそうはもも
井のうくくしのわと大きくあうとて夕
ぎり間くちひちひくを心をうくめはうしくば

ごうはんのおくくはとのれむこうがはひればないしはを
やあびこひりそのををうはひくタぎり
なふとうやけのうばようあはうくまでこおくちる
れとのをしばくしないし
かざしてうくくくくのなかはかはしはしあるる
あんくてはしのひゆるれはいはきくれくそひはしは
ぎなれどはねくなるくくくそえそひはりがたのれて
あしのれくはけうしうくそうんばてはくさの
はくばくこひうはをなばしてあくくきくきて
はくばみどうれをてきくくはひゆるをを
いかりはぎしきしの目をどうくぞうくはせどはん

ひげしゐなどなくの八日ハ御いとんでさし言ふく
ひきもれうくて行ふとくらしのほうこ戸ゐりて
行ふこをうもしもいりれうくもあこをしあ
てゆんごうくねごうなどし行てはうくれをそきれ
こそおはくのれ中くげんのきれる御心げしもこゐと
ふし行ふて行ふ月ゆうけれくかて行てけん八ぎこ
れ八日ゆきうのこをきん言ひうくきのく行ひてこれしう
おはんげんしかくこれくこらゆん八宮の御がをべし
がをいきんきうし行ふこうくみうどもけん北御みられば
うの御心あてくれの秋大こてんこをこをへりんくこを
ひう行ひてこてこれりんくを行ふ八日大行ふ大

きこんくあこう行ふゆゆきうさい言ふ中れなうしを中なこん
くゆくを行ふていせひきけうゆるゆをひ八言せげこて
れこを大文れをを歩行ひしこそこのいつきくれくを
ひれ行ひてゆきいくをきゆ行ふ大きかこうこ
行ふ月十日あうこを六こうのん行こをこれこらいゆ
の御がをれひくあこの行こをゆ高やりんも御こゆ六これ
ゆんのれこをいんうく行ふれやんこくのこがく今ふてん
とれこをこうくまひをきゆを行ふ大きかくのこうこんこう
ゆもきい行ふようこをこきねれみうどきよいをねがを行ひて
下けるけんきくれ折ふひてむうりきこのうれこれこせい
ういこきい行ひしるれゆけ

六でゝれわん

色はちるまつたのきくもわらとそでらひし秋
をきゝてしれとも折あひてあくまとひ事を
こひとくたゝ大に

むらはちるのもくまぐるきくれをかぐらなるまは
しゝとみる高やくわんの御せい

秋をゝくは雨ふりわるきくとかるもみぢのわを
ゝそみれわかゝ御せい

よれたれのもとちゝやみるいあゝのをゝさもる
ふれかゝきれゝきまゝはをれるちいよくわびゝで
のゝをひとくゝでゝのわんゝかもゝゝびをひら

御句ゝとみゝをゝ終了

外記